

防災は近助から

伊勢崎市立宮郷中学校

三年

羽鳥

恵太

昨年しねんの七月、熱海あつみで大規模な土砂崩れどさあふみが起きました。二十六人にじゅうろくにんも命を奪うばい、今も二名が行方不明かたがたふしぎのままです。

僕は、今でもテレビテレビに映うつった、あの光景あつげいを忘わすれることが出来できません。建物たてものや車くるま、大木おおいきを巻き込みまきこみながら斜面さかたを流ながれる、真ま黒くろな土石流どしりゅう。救助きうすけに向かむかっていた消防車しょうぼうしやうや消防士しょうぼうしが闇

一髪いちぱつで巻き込ままれずに済すみ、撮影者さつえいしやの悲鳴かなしみが同時に聞きこえていました。自宅じたくでテレビを見みていた僕ぼくでさえ恐怖こっふを感じかんじたので、現場げんじやうにいた人はどれほど怖こわかったことでしょう。その光景あつげいを見みながら、母ははと兄あには過去かこに起こおこった土砂災害どさあふみのことや、災害あふみにああったとき、どうしたら命いのちを守まもれるかを話わしゃしていました。二人ふたりは防災士ぼうさいしで、災害あふみについてたくさんたくさんの知識ちしきを持もっていたからです。

僕も二人ふたりのように災害あふみのことを学まなんで一緒いっしょ

に話せるようになってきた。思い、昨年十二月に防災士になりました。防災士は、いろいろなか災害から自分や家族、地域を守るための、民間人の防災リーダーのことです。

防災士になるためには、災害に関する二日間研修とテストに合格しなければなりません。研修もテストも僕が初めて聞くことばかりで、とても難しい内容でした。

最初の講義は、防災士が創られた理由でした。阪神淡路大震災のとき、近所の人達がかた。阪神淡路大震災のとき、近所の人達がかたを合せ、がれきの下敷きになった人をいち早く救出し、多くの人命が救われました。このことがきっかけになり、住民や地域のカが再認識され、防災士が創られました。

講義では過去の災害についても学びました。日本で発生した自然災害で、最も多くの犠牲者が発生しているのは、土砂災害によるものです。土砂災害は洪水と違い、前兆が目で見えないことが多く、突然襲ってくるので、避難の判断がしづらいからです。また、日本は

雨がとて多、山を切り開いた場所に多
 の人が住んでいるので、土砂災害の被害が起
 こりやすいのです。災害が少ないと言われ
 いる群馬県でも、台風十九号の時は、富岡市
 と嬭恋村で大規模な土砂崩れが発生し、四名
 もの人が亡くなっています。
 地球温暖化の影響により、台風はどん
 大型になり、降る雨も過去に記録したことの
 ない量になっていきます。今年になってからも
 日本各地で洪水の被害が起こっています。
 大地震の発生する確率も高まっています、い
 つどこにいても災害の犠牲になる可能性があ
 るのです。
 僕は、防災士になってから、地域のために
 何かできるのかを考えていました。自分
 出来ることを見つかりませんでした。
 そんなとき、三月十六日に東北地方を震度六
 強の大きな地震が襲い、多くの建物が壊れ
 けがをした人や亡くなった人もいました。こ
 の地震のあと、インターネットで見出

レのニユースを読みました。

「「震度も以上だったら・・・」仙台の高校

生、地震の夜「約束」果たす」

記事には、幼馴染の高校一年生の二人が、

地震の後に近所のお年寄りの家を回って安否

確認の声掛けをしたことが書かれています。

二人は普通の高校生ですが、東日本大震災

を直接経験しています。そして、次に大きな

地震が来たら近所のお年寄りに声をかけよう

と約束していたそうです。二人は「当たり前前

のことをしただけ、高齢者がけがをして誰か

助けに来なかったら悲しい」と話していました

た。

僕は、年齢が近い二人の行動を知って「こ

れだ」と思いました。防災士だからと背伸び

をする必要はなく、その時の自分ができるこ

とをやらねばいいと気付きました。中学生なら

この二人のように高齢者だけの家庭や小さな

子供がいる家庭などに声をかけたり、学校の

避難訓練のときに防災のことを話したりする

ことができません。そして、僕と同じような考
 えを持つ仲間を増やしていけば、僕の町では
 災害の犠牲者を無くすことが出来ると思うの
 です。

二人の記事を読んで、防災士研修で「地域
 を守るには近所が助け合うことが一番大切
 です。地域の防災は近助からです」と言われ
 たことを思い出し、こういうことかんだと実
 感しました。

僕はまだ実際の災害を経験したことはあり

ません。でも、過去の災害から自分なら何か
 出来るかを考え、地域を守る近所の一員とし
 て活動していきたいと思っています。